

B10a Subaru/XMM-Newton Deep Survey (SXDS)

関口和寛(国立天文台)、青木賢太郎、秋山正幸、家正則、Cathy Ishida、今西昌俊、岩田生、小笠原隆亮、鍛冶澤賢、唐牛宏、小杉城治、児玉忠恭、小宮山裕、佐々木敏由紀、高田唯史、能丸淳一、布施哲治、古澤久徳、古澤順子、水本好彦、宮崎聡、山田亨、吉田道利(国立天文台)、上田佳宏、前田良知(宇宙科学研究所)、小林尚人、齋藤智樹、嶋作一大、土居守、諸隈智貴、安田直樹(東京大学)、大内正己(STScI)、Chris Simpson、仲田史明(ダラム大学)、田中壺(東北大学)

すばる望遠鏡観測所大プロジェクトの一つ”Subaru/XMM-Newton Deep Survey”での大規模構造関連研究の進捗状況と結果を報告する。また、同サーベイ領域の多波長観測計画の進捗状況についても言及する。

すばる望遠鏡”Suprime-Cam”を使った B,R,i'z' バンドでの撮像、ESA XMM-Newton 衛星での X 線撮像、VLA での電波マッピング ($S_{1.4} = 8 \mu\text{Jy}$) は、約 1.3 平方度をカバーし終えた。これは、 $2 < z < 4$ に対して約 100 Mpc x 100 Mpc の広さと、2 Gpc の深さをサンプルしたことに相当する。これらに加えて近赤外線 (IRSF/Sirius)、サブミリ波 (JCMT/SCUBA) での観測データを使い、X 線源 (AGNs)、EROs、SCUBA ソース、等、各ポピュレーションのクラスタリングについて議論する。

初期解析結果からは、硬 X 線源および EROs では、数十 Mpc スケールの構造が示唆される。本学会では、より詳しい解析結果とモデルとの比較から、これらの大規模構造の存在を検証する。